



レスキューからはじめる 湯沢のファンづくり

鈴木 璃歩

(湯沢市地域おこし協力隊)

1 湯沢市の地域おこし協力隊になった理由

高校までを湯沢市で過ごし、大学では建築を学ぶために県外へ出て、その後、宮城県仙台市のリフォーム会社に勤務していました。改修工事や解体が決まったお宅では、工事の前に家財道具をすべて出して部屋を空っぽにするところから作業がはじまります。

ひと家庭から必ず1匹は出てくる北海道の木彫りの熊や、来客時のために何十組と揃えられた食器、おばあさまが嫁入り道具で持ってきた棚などがものすごい勢いで捨てられていく光景を見て、いてもたってもいられず、気が付くと、また誰かが大切にしてくれそうだと思うものを回収しはじめていました。この活動を“レスキュー”と呼んでいます。



(お客様宅でレスキュー)

そんなことを3年も続けていると、借りていた会社の倉庫は古道具や古材（畳の板に使われている木材など）でパンパンに。壊れにくい丈夫な昔の道具や、傷がついてもなお可愛いものに触れていると、シートで覆われた木目“調”のフローリングや、左官“風”のクロスなどの

新建材と呼ばれる化学物質を大量に使用した、本物とは言えない材料を使って家をなおすことに抵抗を感じるようになっていました。

すでにその地域にあったものを、きれいにしたり、必要があれば修繕したりしながら元々の用途にとらわれずつかうと、新しいエネルギーと資源を使わなくて済みます。そんなたくましさを選べる場所が地元の湯沢にあってほしいと、実践しながら広めていくためUターンを決め、協力隊になりました。

2 ミッションと活動方針

私に与えられたミッションは、“関係人口の創出”です。正直なところ、応募段階では「関係人口とは？」と、はてながたっぷりだったのですが、意味を調べ、私なりに咀嚼して出てきた結論は、“湯沢市のファンを増やすこと”でした。まちの人や県外からいらっしゃる方にとって、お気に入りのお店が増えたり、旅の目的地のひとつになったりすることで湯沢市との関係性ができると考え、お店のオープンをメインの目標にしています。

湯沢市には日本を代表する地熱の土地や、小安峡大噴湯をはじめとした泉質の異なる温泉など、豊かな自然があります。しかし、冬には毎日まいにち、寄せてもまた降ってくる雪への耐性がなければ「すぐに移住を！」という流れにはなりづらいのが現状です。そんななかで、「秋田の湯沢っていいところだよな」と気づいてくださったかたが、たった1箇所でもまちや人と

関わりを持ち続けてくださることがファンづくりの行き着く先と、着任から1年経った今、感じています。

3 協力隊1年目の活動

1年目は、まずとにかく人と会うこと、呼ばれたらできるだけ断らずにイベントや企画に参加すること、そして湯沢の自然・文化を体験しに行くことをしていました。

物心ついたころの記憶で止まっていた小安峡大噴湯や川原毛地獄などを、今見てどう感じるのかを確かめたくなり行ったこともありました。7年ぶりの秋田は当時暮らしていたころよりも確実に魅力的にうつっています。

① ゆざわローカルアカデミー

この事業は、湯沢に実際に訪れ、自然や食文化、地域の方との触れ合いにより地域の魅力を体験してもらうことで、まちの人との関係性を作ることを目的とした、昨年度の開催で全6回を数えるプログラムです。



(りんごを収穫する参加者さん)

第6回は秋の収穫体験と伝統工芸をめぐる旅をテーマに、伝統野菜の三関せりやいろいろな種類のりんごの収穫をしたり、ジオガイドさんと一緒に小安峡を散策したり、2日間たっぷり湯沢をまわりました。参加者の中には、季節を変えて、犬っこまつりに合わせてワカサギ釣り

を楽しもうと再訪してくださるかたもいらっしゃるなど、確かに湯沢との関係を保ち続けてくださっています。

② キャリアデザイン事業

“地域交流スペースD I Y作業体験”と題して、今後、貸し出しやイベントの会場としての使用を検討している場所の左官を、首都圏など各地から来られた大学生のみなさんで行いました。築40年ほどで、空き家になってから購入に至るまでの期間が1年と短く、人が住んでいないことによる痛みは全く見られない建物です。

参加してくれた学生さんは全員が左官初挑戦でしたが、手を動かすごとに上達し、予定より早く仕上げてくれました。

興味があることなら、「やったことがないことでもなんでもできるんだ」と今回の企画を通じて感じてもらえていればありがたいです。これからもさまざまな工事工程やワークショップを体験してもらい、ほしいと思ったものはなんでも自分で作れる・直せるといった自分の中のたくましさを育てる場を整えたいと思います。



(左官体験ワークショップ)

③ Recycle shopまたたびの準備

活動方針にも前述した通り、湯沢のファンを増やすために、古道具と古材を扱うリサイクルショップを準備中です。お引き取り(レスキュー)したものにはひとつひとつに番号を振り、記録し、どこからレスキューしたもので、どん

なエピソードがあるのかを調べられるようになっていきます。

ずっと大切にしてきたものや、思い出のあるものを手放すときには、誰もが相応の覚悟が必要で、さみしさも感じるのではないのでしょうか。

「またたび」では、そんな思いも一緒に引き継ぎ、次の人におつなぎしたいと考えています。現在は店舗の改装中のため、あまり多くはありませんが、秋田に帰ってきてからは20件ほどお引き取りをしています。

1年目は、お声がけいただければ、マルシェなどのイベントに出店をしていました。古道具に馴染みがない人でも、可愛いからと手にとりてくださるかたもいて、地域資源をつなげられる場があることは、とても意味があるなと感じました。



(羽後町 盆宿Uでの出店)

4 これから

① Recycle shopまたたびをオープン

またたびであつかうのは食器やコップなどのキッチン雑貨に加え、無垢材の本棚や机、自然素材のざる、椅子などの日用品です。一般のお宅や廃業されたお店の家主さんからご連絡をいただき、また次の人のもとで活躍できそうな子たちをレスキューします。

レスキュー総量を増やす＝廃棄されるものの総量を減らすことです。ただ捨てるだけでは、

ものとの記憶も捨てるようで心苦しいと感じたことのある人は、少なくないのではないのでしょうか。人の数は減り、空き家は増えるなかでも、思い出を次の人に託せる選択ができる場所が地方にこそ必要ではないかと強く思います。

② 手仕事と自然を軸としたイベント

植物を採取して、染物をしたり、お茶を作ったり、地元の人の知恵をお借りしながら自然を目いっぱい活用したイベントをしてみたいと考えています。ここでも、既製品から選んで買わなくても、大抵のものは自分の手でつくれるという感覚を感じてもらえる場を提供したいと思っています。

③ 歩いて楽しむまちをつくる

こういうと抽象的な目標のように感じますが、とにかく可愛い建物や写真を撮りたくなるような通りが地元にあってほしいと思っています。どこの地方都市に行っても同じようなチェーン店が立ち並び、派手な装飾が競い合うように乱立する景色に、まちの個性が失われつつあるように感じます。

湯沢市の歴史をひもときながら、県外の人にも次の時代を生きる人にも「見てほしいな」と思えるような光景を作れたらと考えています。

湯沢の文化と歴史の価値が多くの人にただしく伝わると嬉しいです。

まるで温泉旅館の畳部屋のように、そこでひと段落しながら会話を楽しんだあとに、また湯沢を、秋田を、歩いてくれるような場所の1つにまたたびもなりたいと思います。

湯沢市での協力隊の活動は残り2年。これまでに出会えたかたとのつながりを大切に、湯沢に根付く場所づくり、そしてそこから広がる人の輪を作っていきたいと思っています。